

---

# 株式会社エージーピー 2017年度第1四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2017.7.28

## 企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

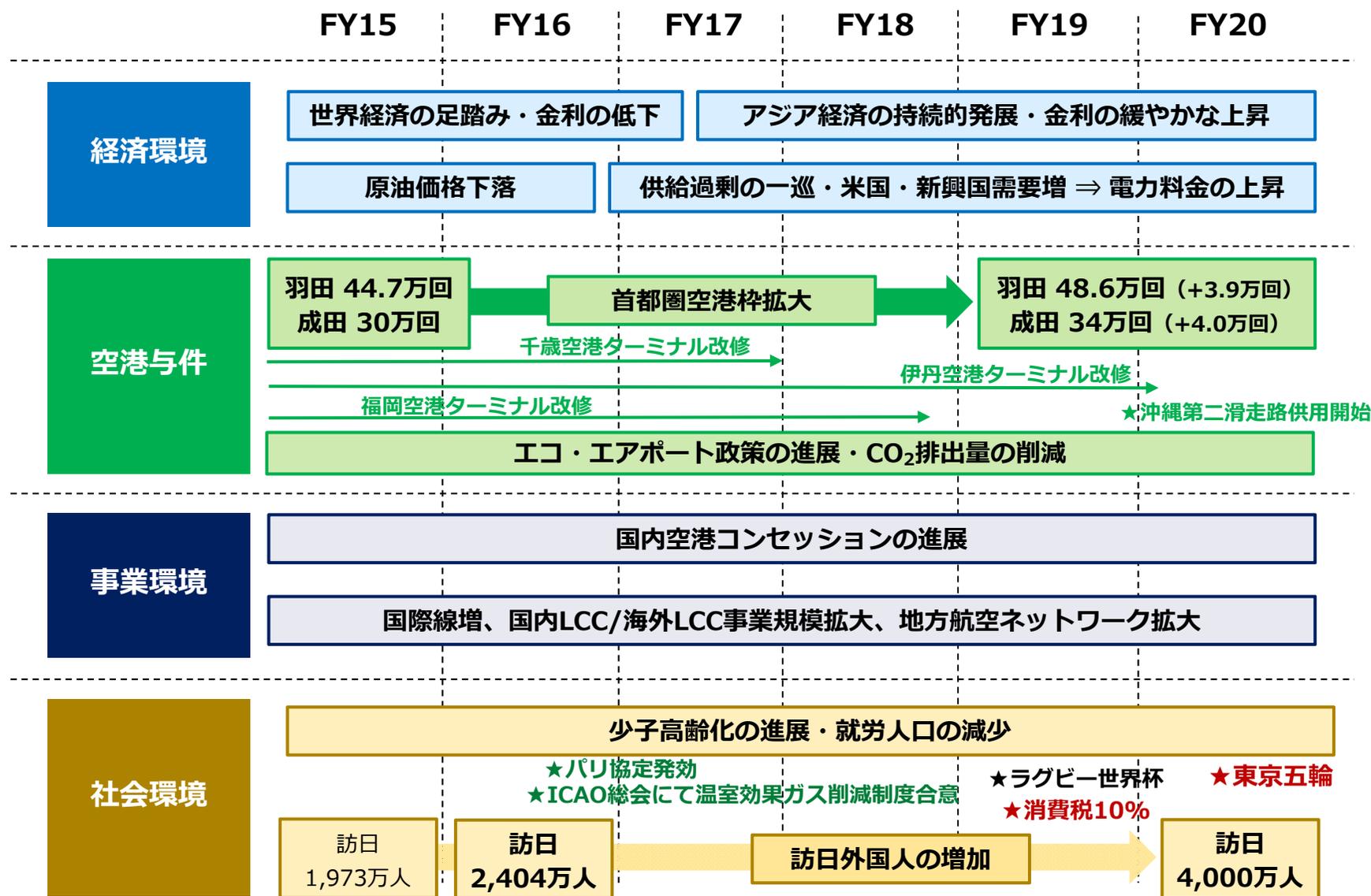
## 長期ビジョン2025(骨子)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

# 当社を取り巻く状況



# 2017年度第1四半期業績概要

空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

# Executive Summary



- 2017年度第1四半期業績は、**対前年**では増収減益。減益の主因は、前期にあったフードカートの大型販売が、当第1四半期ではなかったことで、フードシステムソリューション事業(付帯事業)が減益となっているため。
- **対計画**では、2017年度第1四半期の利益は若干上回って推移しており、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き**。
- 自己資本比率は50%を超え健全な財務体質を維持。
- 主力事業である動力事業の事業環境は良好であり、特に、B787、A350などの高電力機材の使用増加等により単価改善。エアコンの売上も好調であり、動力事業の売上高は対前年+5.2%。
- 低カリウム野菜の生産・販売事業では、小売店舗数が約1,670店舗まで拡大し、売上高は対前年+34.9%。**2018年度の営業黒字化を目指した取り組みを継続中。**

# 2017年度第1四半期業績サマリー



## 連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2016年度 1Q実績	2017年度 1Q実績	増減額
営業収益	2,777	2,824	+47
営業費用	2,590	2,656	+66
営業利益	187	168	▲18
営業利益率 (%)	6.7%	6.0%	▲0.7pt
経常利益	220	169	▲50
四半期純利益 <sup>1</sup>	138	104	▲34

## 営業収益内訳<sup>2</sup>

(単位：百万円)

	2016年度 1Q実績	2017年度 1Q実績	増減額
動力事業	1,277	1,344	+66
整備事業	615	710	+94
施設事業	439	382	▲57
セキュリティ事業	103	104	+1
フードシステム	109	34	▲74
新規事業	110	152	+42
その他事業	121	96	▲25
合計	2,777	2,824	+47

## 連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2016年度 期末	2017年度 1Q実績	増減額
総資産	13,196	12,225	▲970
有利子負債残高	1,339	1,249	▲90
自己資本	7,737	7,684	▲53
自己資本比率 (%)	58.6%	62.9%	+4.3pt
ROE (%)	10.2%	-	-

第1四半期時点では、対前年で増収減益、営業利益率は悪化。但し、収支改善に向けた取り組みを継続しており、通期ベースでは計画通り、対前年での増収増益基調を堅持できる見込み。

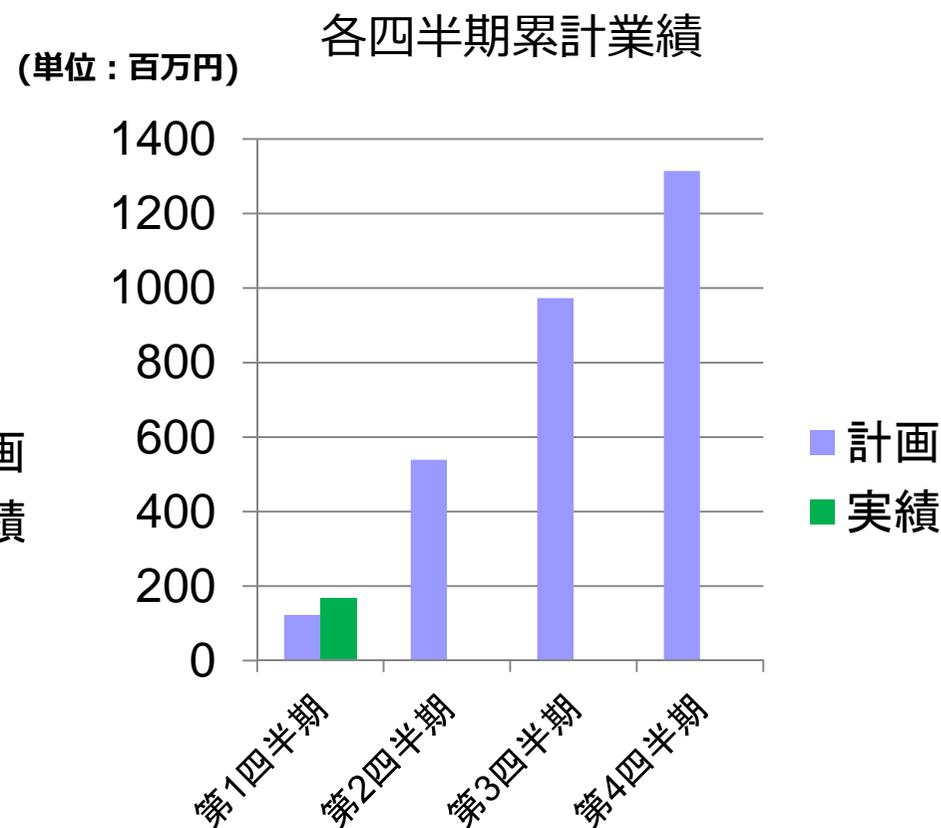
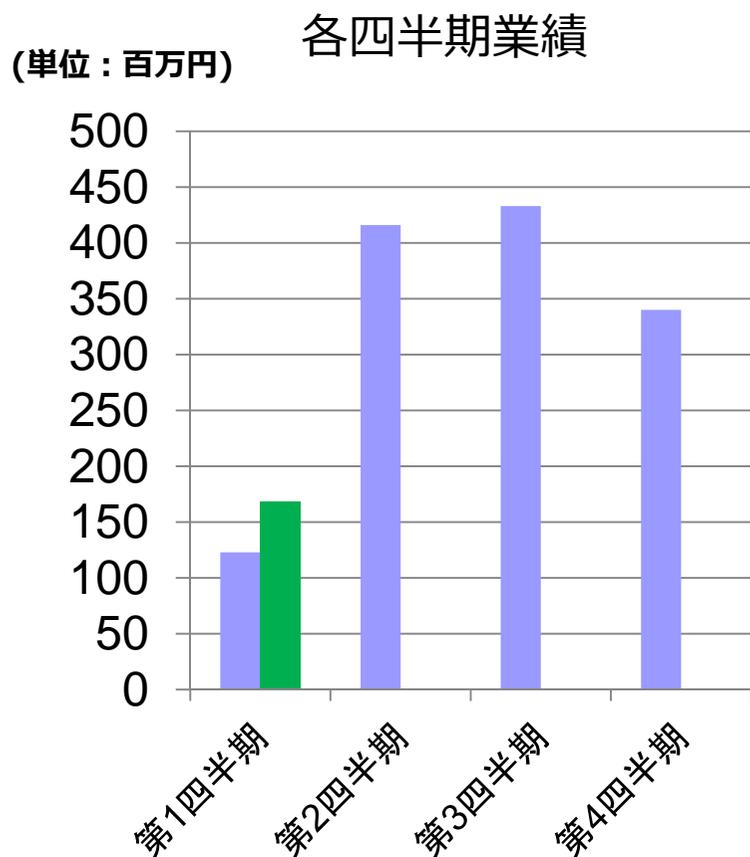
自己資本比率は60%超 (50%以上の確保が中期目標)

- 1 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益
- 2 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示  
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム・リユース事業・新規事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

# 四半期営業利益の対計画進捗



営業利益ベースで計画を達成しており、利益計画の進捗は順調。  
(但し、計画段階で第3四半期に大型の受注を予定している今年度は、第1四半期に大型案件があった前年同期と比較すると、第1四半期だけで見れば増収減益)



# 供給率向上に向けた施策

【動力事業】



## (対前年 動力電気収入増減要因分析)



航空需要の増加に加え、B787、A350等の供給増による時間あたり単価改善や便あたり供給時間の増加が寄与し、動力電気収入は対前年+5.3%となった。

## ■ B787・A350供給率向上に向けた取り組みと実績

B787・A350への供給機会・供給率は前年対比で上昇。

- ・需要対策として電源設備180kVA化更新増強。

固定設備(計76台)：成田(34台)、羽田(37台)、関西(3台)、伊丹(2台)

FY17 全国で計15台の増備(更新)予定

移動機材(計26台)：千歳、成田、羽田、伊丹、関西、福岡へ配備済

今後も順次全国に増備(更新)予定

## ■ LCC供給率向上に向けた取り組みと実績

LCC航空会社への供給機会・供給率は前年対比で上昇。

- ・個別エアラインに提案型営業を展開中。

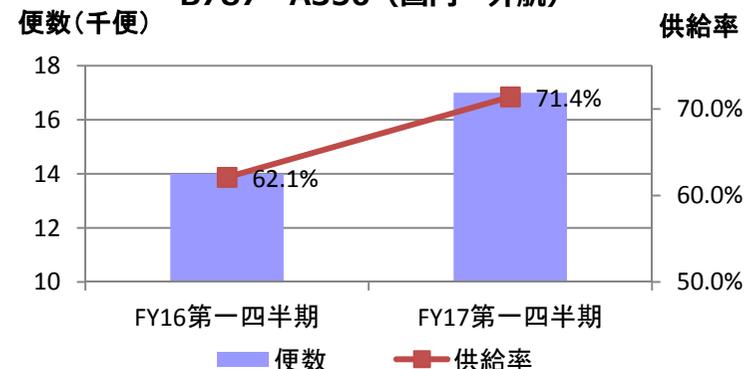
国内社LCC：バニラ・エア(関西)：供給率99%

ジェットスター・ジャパン(成田)：供給率83%

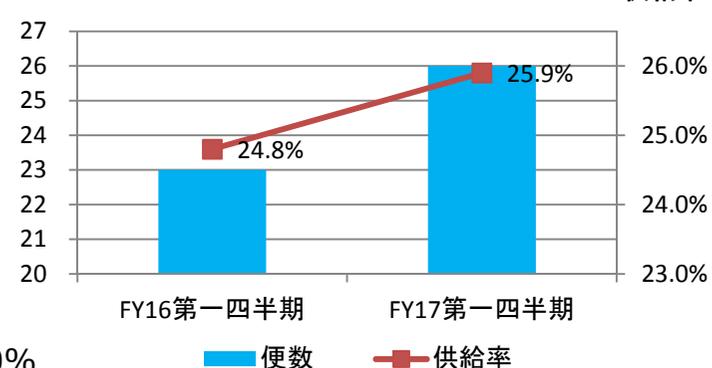
外国社LCC：タイ・エアアジアX(関西)：供給率93%

スクート航空(千歳)：供給率90%、(成田)：供給率90%

## B787・A350(国内・外航)

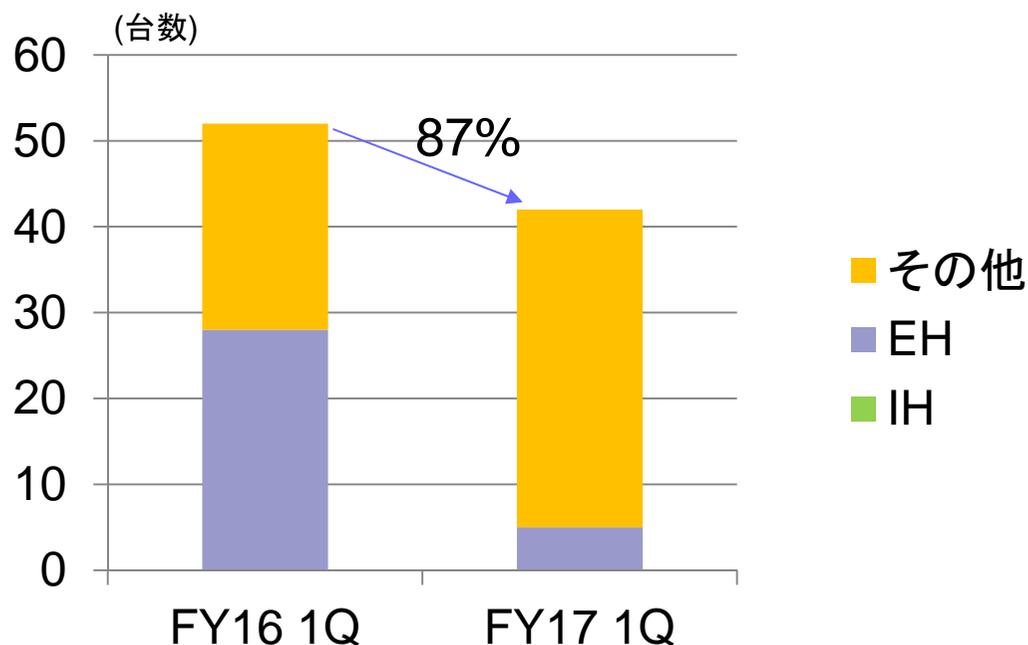


## 国内・外航LCC



# フードカート販売状況

【付帯事業】



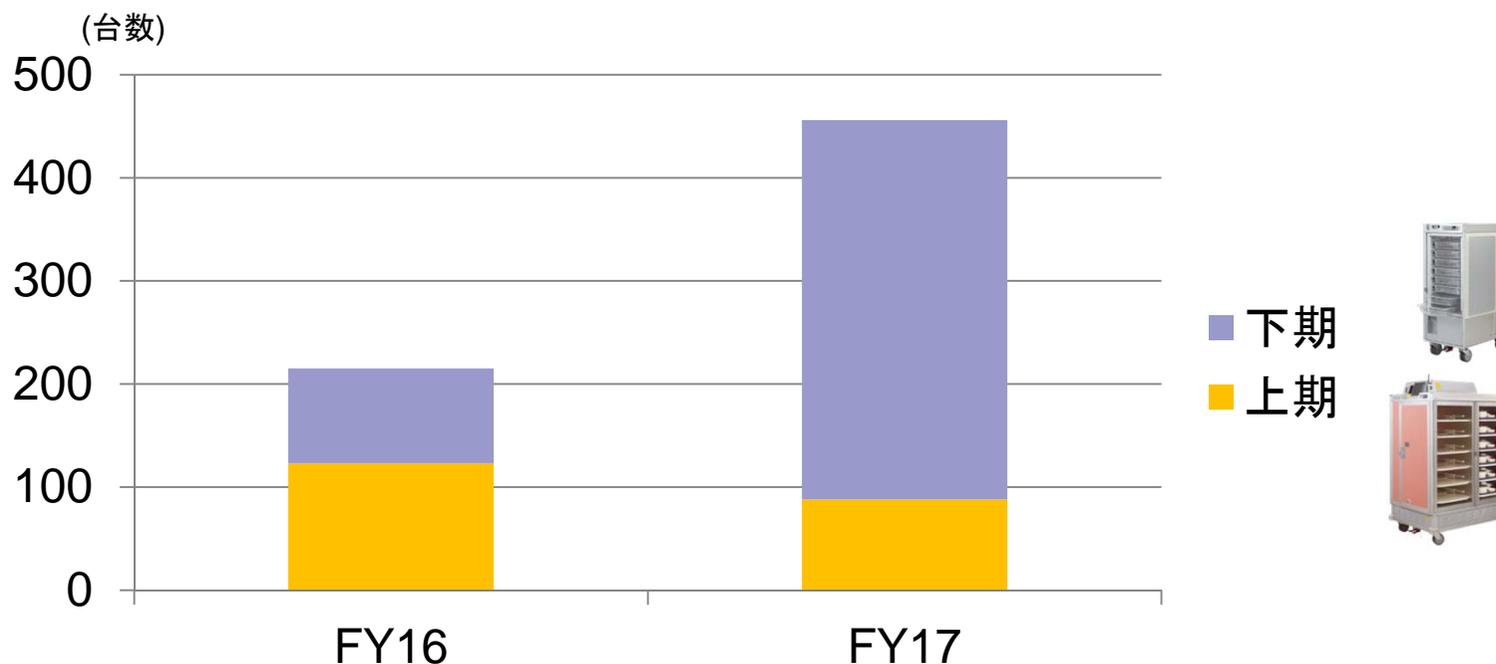
2017年度第1四半期のフードカート販売台数は、主力の再加熱カートの販売案件が減少し、対前年で87%に留まるが、搬送等カートの販売は好調。

主力のIH再加熱カート(IHカート)及びEH再加熱保冷カート(EHカート)は、新規病院に向けた大型案件の売上を、第3四半期及び第4四半期に予定。

(件数/台数)	FY16 1Q	FY17 1Q	増減	備考
病院 (内リピート案件)	3件/47台 (0件/0台)	3件/37台 (2件/24台)	±0件/▲10台 (+2件/+24台)	EH販売減は昨年度に新規大型病院案件(38台)があった反動によるもの。
病院以外 (内リピート案件)	4件/5台 (1件/1台)	1件/5台 (1件/5台)	▲3件/±0台 (±0件/+4台)	
合計 (内リピート案件)	7件/52台 (1件/1台)	4件/42台 (3件/29台)	▲3件/▲10台 (+2件/+28台)	

- 1 EH : ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
- 2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

# フードカート販売通期見通し 【付帯事業】



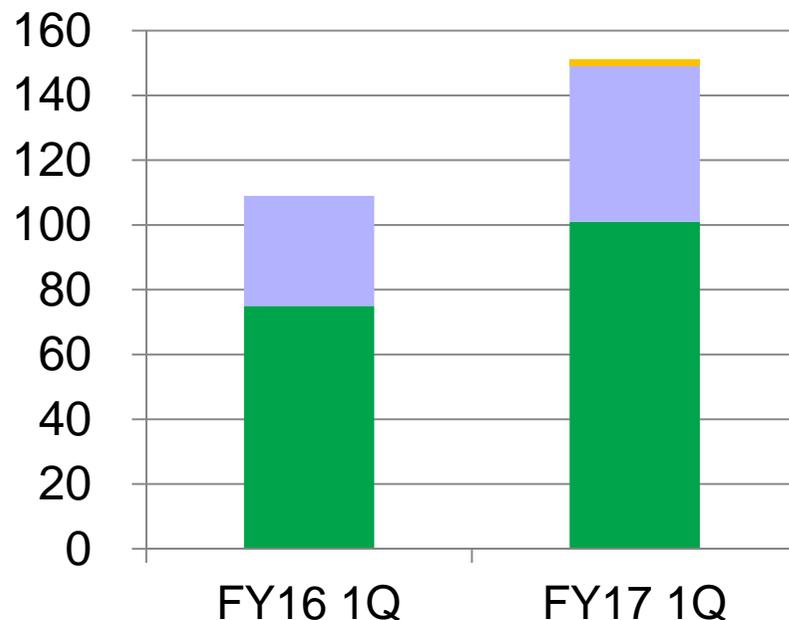
**FY17は下期に大型案件の受注が確定しており、通期ベースでのフードカート販売は対前年で増収増益となる見込み。**

# 新規事業売上高

【付帯事業】



(百万円)



■ 小売電気事業等

■ ビジネスジェット支援事業

■ 低カリ野菜生産・販売事業



低カリウム野菜・生産販売事業は、販売店舗拡大ペースに合わせた生産・販売を実施。営業利益の黒字化は2018年度を予定。

ビジネスジェット支援事業は契約機数の増加やクリーニングサービス等の開始により、営業黒字を確保。

小売電気事業は、2017年度から販売活動を本格化しており、徐々に業績に寄与する見込み。

## 安全・安心レタスで笑顔の食卓づくりをお手伝い

野菜の生育に必要なカリウム含有量を一般レタスの20%以下に削減  
健常者にはおいしさと利便性で、カリウム制限※のある方にも  
安心して新鮮な生野菜をお召し上がりいただけることから大好評

※重い腎臓疾患をお持ちの患者さんは厳しいカリウム摂取制限を受けています

### 新商品発売開始！！

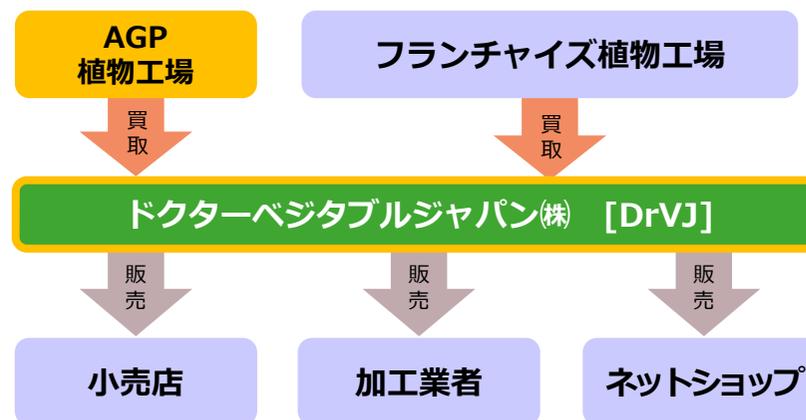
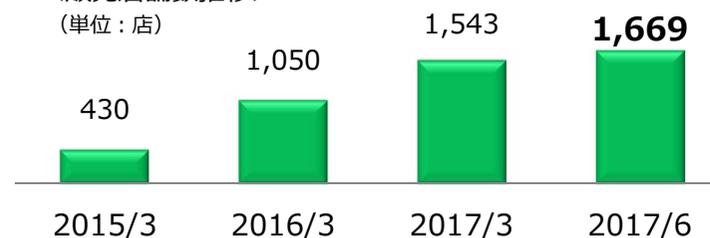
2017年4月より、低カリウムレタスに次ぐ新商品として、

**低カリウムトマト**の販売を開始しました。

このトマトは、国立大学法人千葉大学大学院園芸研究学科との共同研究で開発したもので、一般のミニトマトに比べカリウム値を50%削減しています。



<販売店舗数推移>  
(単位: 店)



低カリウムレタス、低カリウムトマトに関するお問い合わせ

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-1 日東合同ビル6F

フリーダイヤル: 0120-0831-82

メール: [info@drvegetable.jp](mailto:info@drvegetable.jp)

**Dr. Vegetable**<sup>®</sup> <http://www.drvegetable.jp/>

## 日産3,500株出荷 DrVJ社の販売量に合わせて生産を実施

完全閉鎖型&完全人工光型植物工場である横芝光植物工場で生産するレタスの特徴は・・・

### 低カリウム

腎臓病患者の方も安心

### 農薬不使用栽培

苦味・エグミが少なく

### 低生菌数

水洗い不要で鮮度が長持ち



事業内容：低カリウムレタス Dr.Vegetableの生産  
所在地：千葉県山武郡横芝光町  
営業開始：2014年8月  
生産規模：低カリウムレタス 4,000株/日  
従業員：31名 (パート従業員含む)

2016年4月小売電気の全面自由化を機に、動力事業に係る電気調達の効率化を目的としつつ、空港内外の需要家に電力販売を行うため、小売電気事業者の登録を2016年8月に完了し、11月よりAGPによる小売電気の供給を開始。供給エリアは沖縄を除く全国をカバー。付加価値サービスを拡充予定。

### \* TOPICS

- 電力販売代理店契約：5社（6月末現在）
- インターネット回線や、ガスの販売を、小売電気とパッケージ販売すべく調整中。

### \* 申込状況 (2017年6月末迄)

種別	契約合意 件数	見積完了 件数	見積依頼 件数
高圧	12	84	103
低圧	73	198	198



## 「AGPでんき」

お見積り・お問い合わせは下記までお願いします。

電話：03-3747-0071

email：agpdenki@agpgroup.co.jp

(注) AGPでは発電所を持たず、需給管理も大手新電力のバランスグループに入ること、極力リスクを抑えたスキームとしています。

首都圏初、成田空港でビジネスジェット専用ハンガーを2015年2月に開設。  
定期駐機・臨時駐機および、クリーニングサービスも順調に推移。

## 事業内容

- 駐機スペースの提供 (広さ7,655㎡)  
※ プライバシーを確保
- 地上ハンドリング業務、機材提供
  - ・ 航空機電源供給サービス
  - ・ クリーニング・サービス (機体内外)
  - ・ トーイング・サービス (機体牽引移動)
  - ・ クルー等送迎サービス
  - ・ 窒素 (N2) 補充サービス
  - ・ 給排水サービス → 準備中
  - ・ 機体整備支援サービス → 準備・検討中
  - ・ その他 (部品管理等) → 準備・検討中

写真：トーイング・サービス



写真：クリーニング・サービス (ブライトワーク)



- ・ 2015年2月1日より  
駐機スペースの提供ならびに航空機電源供給サービスを開始。
- ・ 2015年8月20日よりトーイング・サービスを開始。
- ・ 2015年9月20日よりクリーニング・サービスを開始。
- ・ 2016年2月1日より  
クルー等送迎、航空機タイヤ等への窒素(N2)補充サービスを開始。
- ・ 2017年度第1四半期実績  
トーイングサービス：計11機に対し 62回実施。  
機体クリーニングサービス：計7機に対し 14回実施。  
窒素 (N2) 補充サービス：計1機に対し1回実施。

	FY16 1Q	FY17 1Q
定期駐機契約数	3機	4機
臨時(SPOT)駐機機数	3機	6機
クリーニング機数	6機/19回	7機/14回

### 【定期駐機契約数の推移】

FY14 2月～1機  
FY15 12月～2機  
FY16 5月～3機  
9月～4機

# 第1四半期のTOPICS



- 【4月】 海外事業展開を含む空港を中心とした成長戦略を確かなものとするため、日本空港コンサルタンツへの出資と業務提携に合意。
- 【5月】 双日株式会社、JALUX株式会社、西松建設株式会社、総合警備保障株式会社などとタイ東部経済回廊政策(EEC政策)参画を検討する基本合意書を締結。
- 【5月】 低カリウムトマトの試験販売を開始。
- 【6月】 当社の事業領域拡大および多様化に対応するため、ガス販売事業、自然エネルギー、水素ガス燃料施設の維持管理等を定款の事業目的に追加。

# その他

空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

# 2017年度業績見通し



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度 計画	増減額
売上高	12,291	14,000	+1,708
営業費用	11,176	12,700	+1,524
営業利益	1,115	1,300	+184
営業利益率 (%)	9.1%	9.4%	+0.3pt
経常利益	1,132	1,300	+167
当期純利益 <sup>1</sup>	754	770	+15

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度 計画	増減額
総資産	13,196	14,550	+1,354
有利子負債残高	1,339	1,120	▲219
自己資本	7,737	8,370	+633
自己資本比率 (%)	58.6%	57.5%	▲1.1pt
ROE (%) <sup>2</sup>	10.2%	9.6%	▲0.6pt

期中改善による営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す

## 営業収益内訳<sup>3</sup>

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度 計画	増減額
動力事業	5,205	5,400	+194
整備事業	3,318	3,700	+381
施設事業	1,962	1,900	▲62
セキュリティ事業	424	450	+25
フードシステム ソリューション事業	410	870	+459
新規事業	511	1,050	+538
その他事業	459	630	+170
合計	12,291	14,000	+1,708

事業環境が良好な空港内既存事業の増収を図りつつ、フードカートや新規事業等、空港外事業を拡大し、売上高140億円を計画。

1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

2 (当期純利益\*) / (期首・期末平均自己資本)

\* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

3 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示

# タイの中小企業との連携促進



2017年3月10日、当社とタイ国工業省産業振興局は、同国の工業振興策の一環として、当社とタイ中小企業との連携促進に相互協力する覚書をバンコクにて締結しました。

本覚書に基づき、当社は3月にはタイ国中小企業活性化イベント「SME Revolution」に、同7月には大規模展示会「Thailand Industry EXPO2017」に出展しています。



当社は、今後、同様の活動を通じてタイでの当社知名度の向上、タイ中小企業との協業を進めていき、高い技術力と環境社会への貢献を強みに、発展著しい東南アジア各国への進出に繋げていく予定です。

# 環境への取り組み実績

## CO<sub>2</sub> 排出量の削減

(単位 : t-CO<sub>2</sub>)

(t-CO <sub>2</sub> )	FY16 削減実績	FY17	
		削減目標	1Q実績
CO <sub>2</sub> 削減量 *1	303,879	315,000	78,835

\*1 GPUの利用によるAPUからのCO<sub>2</sub>排出削減量  
対象空港 : SPK・NRT・HND・ITM・KIX・UKB・HIJ・FUK・OKA

## エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY15 活動実績	FY16 活動実績	FY17 1Q実績
活動項目 件数 *2	53 件	61 件	34件

\*2 1つの活動項目を1件とカウント  
例) 1つの支店で「エプロン清掃活動」を2回実施しても1件とカウント

# 環境への取り組み 事例紹介

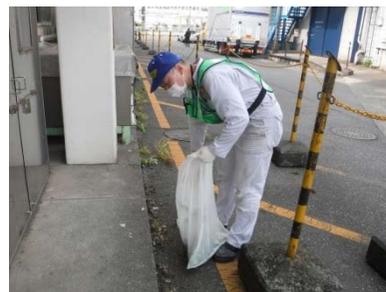


## エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



SPK エプロンクリーン活動



HND FZ 環境美化活動  
(2回/月 × 4SC)



ITM エプロン清掃



CUB エプロン清掃



KIX FZ バス停清掃活動  
(毎週金曜日)



KIX WZ ランプ清掃  
(MM FODイベント)



OKA エプロン清掃



本社・HND 環境展示協力  
品川エコフェスティバル  
(羽田空港広報連絡会)

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステムソリューション事業、新規事業、その他をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

## お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画・財務部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>